

分かる と 快感!

Z会ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お題

室町幕府の地方支配のあり方を 地図で見ると?

(東京大学 2011年 日本史)

地図で見れば一目瞭然!

九州地方には、文章(2)にあるとおり幕府の役所がありました。その役所の勢力が弱まっていたことや、幕府のある京都からも遠く離れていたことから、幕府の支配が弱まりがちな地域でした。関東・東北地方に鎌倉府という幕府の役所が置かれていましたが、当時、鎌倉府はこの支配地域についてさまざまな権力を持つようになり、京都の幕府と対立するようになっていました。はとも幕府から見ると支配が不安定な地域だったので。

このような事情を踏まえたうえで、で示した今川、上杉、大内の3氏の領地を見てみると、まさに九州地方と関東・東北地方を監視するような位置に3氏の領地があることがわかります。この3氏が京都に来てしまうと九州・関東・東北地方の支配がおろそかになってしまうので、幕府は3氏が監視役として、自分の領地にとどまることを認めたのです。

【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

資料はそのまま見るだけではなくて、図にしてみるなどの工夫をすると見え方が変わります。



河原井彩さん、2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を担当。趣味は乗り物に乗ること。将来は猫と2人暮らし(希望)。新潟県生まれの埼玉県育ち。

次の表は、15世紀前半頃、室町幕府の下で諸国を支配していた守護のうち、今川・上杉・大内氏の領地についてまとめたものです。

名前	国
今川	駿河
上杉	越後
大内	周防 長門

- 当時、有力な守護は原則として幕府のある京都にすることが求められましたが、今川、上杉、大内の3氏は京都行きを免除されることも多くありました。
- 大内氏は昔、幕府に反抗したこともありましたが、この時期には勢力が弱まっていた幕府の役所に代わり、九州地方の支配に大きな役割を果たすようになりました。

上の表と文章(1)(2)を読み、今川、上杉、大内の3氏がなぜ京都行きを免除されることが多かったのか、説明しなさい。

今回取り上げた室町時代は14~15世紀後半頃のこと、足利氏が将軍として頂点に立ち、各地の国を支配した守護と呼ばれる幕府の役人をたばねて全国を支配した武士の世です。では、早速問題を見ていきましょう。

表と文章を読み解くと?

あげられている資料のうち、文章(1)は設問文の背景の説明、(2)は設問を解く手掛かりに



イラスト：瑞木匠

見え方を変える工夫をする

なりそうです。では表はどのように使えばよいのでしょうか? 昔の国名で書かれているので少しわかりにくいですね。地図にしてみましょう。

